香川県次代の担い手育成コンソーシアムこれまでの協議

平成２３年度

高校生の就職支援につながるよう人材育成に主眼をおき、企業が求める人物像などについて協議を行った。平成２３年度委員（別紙①）

① 第１回会議（H23.6.10）

ア 高校におけるキャリア教育の現状等について

(ｱ)高校生の進路状況、就職内定状況について

(ｲ)高校におけるキャリア教育について

・インターンシップの実施（全ての職業高校と普通科８校で実施）
・社会人講師の活用（全ての県立高校で実施）
・進路指導講演会（８校で実施）
・大学等訪問、出前講座（２４校で実施）

(ｳ)キャリア教育充実事業について

・ジョブ・サポート・ティーチャーの増員
・プロを講師とした授業
・ナンバーワン専門高校プロジェクト
・就職スキルアップセミナー

イ 企業が求める人物像について

・「既成概念にとらわれずにチャレンジ精神を持ち続ける人」、「企業の発展のために逆境に耐え粘り強く取り組む人物」
・「主体性」、「コミュニケーション能力」、「実行力」、「チームワーク、協調性」
・応用力や人柄、誠実さ、温厚などの人間性
・打たれ強く、自分で課題を解決できる力や責任感を持つ人
・敬語を身に付けて、人前でしゃべれる人
・「目的、目標、夢」を持っている人　（仕事に関心を持ち、目的意識が高い）

〔企業側からの意見〕

・やることをやらずに自分の権利、考えだけはしっかり主張する人がいる。
・入社試験では感じよく完璧に受け応えするが、採用して半年たって入社式に来ると、別の人になっている。
・我慢ができない人が多くなった。
・真面目だが、人付き合いができない生徒がいる。（コミュニケーション能力の不足）
・教員は社会との接点が少ないため、社会を意識した教育ができていない。

② 地区運営協議会（小豆・東讃・中讃・西讃）

〔第１回会議〕
7/4 西讃　7/4 東讃
7/5 小豆　7/7 中讃

〔第２回会議〕
10/11 東讃　10/12 中讃
10/12 小豆　10/13 西讃

③ 第２回会議　（H23.12.16）

ア 企業における人材育成や研修について

・頭ごなしに叱ると社員が考えなくなる。しっかりと話を聞き、メリット、デメリットを考えさせている。
・企業人としての心構えについて（２日間：「仕事は何がしたいか」ではなく、「仕事は何ができるか」が大切である）、専門的技術（３週間：仕事に必要な知識）の研修を実施している。

・社内で一番大きな声が出る社員を呼んで、手本を見せると、まだ声が出てないことに気づき、変わる。
・最低５年間は我慢するように言っている。我慢することで見えてくるものがある。
・仕事をすることで、社会にどう貢献しているのかを考えさせている。

イ 企業と連携した人材育成について

・ハローワーク主催の企業説明会（10 社参加）を実施した。
・総合的な学習の時間で、職業講話をしていただいている。

〔企業側からの意見〕

・目標を持たすには、見本を見せることが大切である。
・「生きること」、「働くこと」を考えて来て欲しい。
・目標意識を身につけて欲しい。
・辛抱（下積み）が必要。専門職になるには時間がかかる。
・内定後、入社までの間、定期的に生徒と企業との接点が必要と感じる。
・地域社会が元気になって、社会としてこれからの子供たちを育てる必要も感じる。
・生徒は、地元企業を知らない。

【課題】

・各学校において、コミュニケーションの育成などに取り組んでいるが、目的を生徒が十分に理解できていない。

（例：あいさつ）

１　「なぜ、あいさつするか」を理解させる必要がある。（目的）
２　よい手本を見せ、声が出ていないことに気付かせる必要がある。（気付き）

④ 学校への周知と学校での取組み

ア 校長会・進路指導主事会等での周知

コンソーシアムで出た意見を周知した。また、「なぜ」という目的意識などを考えた取組みをするように伝えた。

イ 学校での取組み

・あいさつ運動の実施（平成 24 年度　７校で実施）
・社会人講師、卒業生を招いての進路講話
・ジョブ・サポート・ティチャーによる講話
・学校における地元企業説明会の実施

平成２４年度

高校卒業後、半数以上の生徒が大学に進学する現状から、中学校と大学の関係者を委員に加え、校種間の連携（縦の連携）についても協議を行うことにした。

平成２４年度委員（別紙②）

① 第３回会議　（H24.6.6）

ア 中学校、高校、大学におけるキャリア教育

〔中学校〕

・中学２年生全員に職場体験をさせている。
・中学校で行っている職場体験は、仕事を見る、知る機会が少ない生徒が、親の仕事を知る機会と捕らえている。（頑張る大人の姿を見て欲しい）

〔高校〕

・普通科高校では、二つのキャリア教育に取り組んでいる。一つ目は、社会人を学校に招いた講演・意見交換であり、二つ目は大学訪問である。大学進学者が多い普通科では、大学の先生や学生との意見交換により、「大学とは」「学問とは」「社会とは」を、大学を通じて知るようにしている。

〔大学〕

・香川大学では、学生の市民的責任感（Student Social Responsibility）育成システムとして、①社会規範意識、②他者受容力、③自律性・持続性、④地域適応力 を体系的に育成している。

〔中学校からの意見〕

・「生きること」「働くこと」などを意識せず育ってきている。中学生には、キャリア教育というより「生き方」そのものを学ぶ必要があると感じる。

・自尊感情や自己肯定感を育み、将来の夢の実現に結び付けていくことが重要だと思う。

・土台になっている基礎・基本は、「あいさつができる」「人の話が聞ける」など簡単な言葉で表現できる。新しい取組みをするのではなく、シンプルに当たり前のこと（本当に大切なこと）をぶれずに確実に行うべきである。

〔高校からの意見〕

・自分を価値ある人間と思う自尊感情、自己肯定感が育っていないのではないか。小学校や中学校など早い段階から、成功体験や達成感を味わうことのできる取組みが必要だと思う。

〔大学からの意見〕

・大学は、社会からは実践力がある学生を求めらるれが、入学生はモラトリアム（明確な目標を持たない）学生が多くなってきた。

・ただ受身に授業を受け知識を増やすのではなく、自分なりの取組みををまとめたり、自ら課題を見つけ課題を解決する取組みが重要だと思う。

イ 企業と連携した人材育成について

・地元企業の高校内企業説明会は好評であり、各ハローワークで１校以上は実施する予定である。

・ハローワークでは、高校生の求人を出す企業を対象にアンケートを実施し、職場体験・インターンシップの受入の可否情報を、学校に知らせこととした。

〔課題〕

・中学校、高校、大学、それぞれ取り組むべきキャリア教育と校種間連携を整理する必要がある。

・キャリア教育は、継続しないと成果が上がらない。単年の取組みでは、効果は薄い。

② 地区運営協議会（小豆・東讃・中讃・西讃）

〔第３回会議〕

7/3　小豆　　7/11 西讃

7/18 東讃　　7/19 中讃

〔第４回会議〕

10/12 中讃　　10/15 東讃

10/17 西讃　　10/18 小豆

③ 第４回会議　（H24.12.20）

ア 学校種間の連携（「縦」の連携）について

〔中学校〕

・町教委が、中学生を対象とした寺子屋（関西の大学生による指導）を実施している。

・連携にはお互いの情報発信が大切である。
・地元密着型の行事が計画できれば、小中高の連携はとりやすい。

〔高校〕
・高校生が小学校などへの出前授業などを行っているが、小学生などとの交流で刺激を受けている。
・進学や就職を決めた3年生の合格体験談を、2年生に語るLHRを設けている。
・体験入学での説明を生徒にさせるようにしている。（人前で話すことに自信がつく）
・中学生を高校に招いて、授業を体験してもらっている。
・部活動の交流を行っている。（ジョイントコンサート、小学生野球教室など）

イ 事業者や地域との連携（「横」の連携）について

○企業と連携した取組みについて
〔中学校〕
・5 日間の職場体験を実施しているが、就業場所の開拓に苦労する。
・職場体験で、仕事のおもしろさを知らせたいが、制限が多く希望する体験ができていない。

〔高校〕
・インターンシップを体験することで、仕事の大切さ、尊さなどを肌で感じることができる。
・インターンシップ、社会人講師の開拓が大変なので、相談先やリストがあると良い。

〔企業〕
・インターンシップが若手社員の刺激になっている。
・インターンシップが、当たり前のようになり緊張感がなくなっている。目的を持ってきて欲しい。
・地元の企業を知らない生徒が多い。

○地域と連携した取組みについて
・地元で働く、地元に戻ってくるには、子ども時代に地元に貢献した体験が大切である。
・クリーン作戦、オリーブマラソンなど地域行事に、中高生がボランティアとして参加している。
・商工会では「子どもまつり」を開催し、地元企業の仕事体験ができるようにしている。
・窓口が明確になれば、地域交流がもっと進むと思う。

〔中学校からの意見〕
・「縦」の連携を考えたとき、小学校の先生に参加してもらう方がいいと思う。
・到達目標がはっきり見える会にして欲しい。協議が反映されるようにして欲しい。

〔高校からの意見〕
・中長期的視点から、キャリア教育についてみんなが認識を深めていく必要がある。
・コンソーシアムで協議された内容など企業の思いを、広く生徒に知らせるといいと思う。

〔企業からの意見〕
・「なぜ生きるか」「なぜ勉強するか」を鍛える必要がある。「なぜ」がないから、本筋からずれることがある。
・やる気を育てるには、成功体験が必要である。「何のため」(ｺﾞｰﾙ)がわかれば、必要性が生まれる。

（別紙）

① 平成２３年度 香川県次代の担い手育成コンソーシアム委員名簿

	所　　属　　名	職　名	氏　　名
1	アオイ電子株式会社	管理本部長	木　下　　和　洋
2	香川県経営者協会	専務理事	福　家　　正　一
3	香川県商工会連合会	副会長	篠　原　　公　七
4	香川県中小企業団体中央会	専務理事	谷　野　　克　明
5	香川県産業教育振興会	会　長	青　木　　晃
6	香川県高等学校長協会	会　長	土　居　　直　哉
7	香川県高等学校教育研究会進路指導部会	会　長	横　山　　賢　治
8	香川県高等学校教育研究会工業部会	会　長	合　田　　憲　弘
9	香川県私立中学高等学校連合会	会　長	吉　田　　莞　爾
10	香川県総務部総務学事課	課　長	宮　本　　義　洋
11	香川労働局職業安定部職業安定課	課　長	古　家　　月　夫
12	高松公共職業安定所	所　長	石　井　　豊
13	香川県教育委員会	教育次長	八　木　　和　広
14	香川県教育委員会事務局高校教育課	課　長	市　原　　伸　作

② 平成２４年度香川県次代の担い手育成コンソーシアム委員名簿

	所　　属　　名	職　名	氏　　名
1	アオイ電子株式会社	管理本部長	木　下　　和　洋
2	香川県経営者協会	専務理事	福　家　　正　一
3	香川県商工会連合会	会　長	篠　原　　公　七
4	香川県中小企業団体中央会	専務理事	谷　野　　克　明
5	香川県産業教育振興会	会　長	青　木　　晃
6	香川県高等学校長協会	会　長	島　田　　政　輝
7	香川県中学校長会	会　長	田　中　　伸　治
8	香川県高等学校教育研究会進路指導部会	会　長	直　井　　信　也
9	香川県私立中学高等学校連合会	会　長	吉　田　　莞　爾
10	香川大学キャリア支援センター	センター長	有　馬　　道　久
11	香川県総務部総務学事課	課　長	山　田　　泰　子
12	香川労働局職業安定部職業安定課	課　長	古　家　　月　夫
13	高松公共職業安定所	所　長	石　井　　豊
14	香川県教育委員会	教育次長	竹　林　　敏　之
15	香川県教育委員会事務局高校教育課	課　長	竹　内　　秀　夫
16	香川県教育委員会事務局義務教育課	課　長	鈴　木　　文　孝